The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	日本語とクメール語における勧誘会話の対照研究 ：断り会話の構造を中心に
Author(s)	クイ，シェンキアン
Citation	日本語・日本文化研究. 2019, 29, p. 268-279
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/73712
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

日本語とクメール語における勧誘会話の対照研究
－断り会話の構造を中心に－

クイ　シェンキアン

1. はじめに

本稿では、勧誘の断り会話について、日本語とクメール語の異同を明らかにすることを目的とする。クメール語母語話者である筆者の経験では、日本語母語話者（JNS）と日本語で勧誘会話を行う際、JNS に誘われて断ると JNS がすぐに断りを受諾し会話を終えるため、筆者は「もう会話が終わったのか？」と物足りなさを感じたり、「本気で誘ったのか？」「ただの建前？」と疑ったりすることがある。JNS とクメール語母語話者（KNS）が日本語で勧誘会話を行う際、上記のようなミスコミュニケーションが生じるのは、日本語とクメール語の勧誘会話の仕方の違いが原因の一つと考えられる。そのミスコミュニケーションを避けるためには、両言語の勧誘会話の共通点と相違点を明らかにする必要がある。

本稿では、日本語とクメール語の勧誘の断り会話の構造を明らかにし、クメール語母語話者に対する日本語教育のための基礎研究としたい。

2. 先行研究

日本語の勧誘会話の代表的な研究にはザトラウスキー（1993）、筒井（2002）、川口他（2002）、長谷川（2002）、鈴木（2003）がある。ザトラウスキー（1993）は、電話の会話データを用いて日本語と英語の勧誘のストラテジーについて考察している。日本語の断り会話では、被勧誘者が断る可能性を示した後、勧誘者は被勧誘者に気を配り、被勧誘者は勧誘者に思いやりを示しながら、談話を進めると述べている。筒井（2002）は、日本語の会話教育の視点から勧誘の談話を構造的に分析し考察している。「勧誘」の会話は、会話の状況や勧誘者と被勧誘者の人間関係などによって連鎖構造が異なるが、大きく＜勧誘＞と＜相談＞の二つの部分に分けられる。また、相談せずとも行為に移ることのできる勧誘の場合は、＜勧誘＞の部分のみで終わる。あるいは、＜勧誘＞において被勧誘者が断りの応答をすれば、＜相談＞の部分は必要がなくなると指摘している。鈴木（2003）は、日本語の教科書における勧誘の扱いの問題点を指摘し、勧誘という言語行動を発話・談話・言語行動という三つのレベルから分析している。勧誘に関して最低限必要な情報は、「誰が誰をいつどこで何をすることになぜ誘っているか」であるとし、多くの教科書では状況と談話展開の関係も示されず、挙げられた会話文のどこが共通するか、どこが異なるかも示されていないと述べている。

日本語の勧誘会話の対照研究は、これまでにインドネシア語、スワヒリ語、カザフ語、中国語、韓国語等との研究が行われている。ここでは、勧誘の断り会話の発話の連鎖やス

トラテジーに関する研究を取り上げて概観する。吉田（2011）は、ロールプレイの手法を使用し、日本人女子学生とインドネシア人女子学生の勧誘場面の断りにおける代案のストラテジーの特徴について分析・考察を行っている。日本語母語話者の断り手は、「代案伺い」や「条件提示」を使用し、勧誘者には、「将来の約束」をし、具体的な約束をせずに会話を進める傾向があると指摘している。一方、インドネシア語母語話者の断り手は「直接代案提示」をすることで、お互いに調整しながら具体的な代案を提示して会話を進めていくと述べている。中垣（2014）はロールプレイデータを用いて日本語とスワヒリ語の勧誘会話の対照研究を行っている。断りの場合、日本語では、被勧誘者は「用事」や「忙しい」という断りの理由説明をし、断るものが多い。それに対し、勧誘者はすぐに断りを受け入れ再勧誘をしなかった。しかし、スワヒリ語では、すぐに断りを受け入れずに、ほとんどの場合、再勧誘をしたと述べている。アイトマガンベトヴァ（2016）は、ロールプレイデータを用いて日本語とカザフ語との勧誘会話の対照研究を行っている。カザフ語の勧誘の断り会話では親しい友人間で代案や再勧誘によって一度断った相手に承諾してもらうことがよくある。代案がある場合、被勧誘者からだけでなく、勧誘者からも提示されているが、それに対して、日本語では、被勧誘者からの代案しか見られなかったと述べている。

日本語の勧誘の断り会話における断りストラテジーに関する研究は多くあるが、勧誘の断り会話の構造を分析した研究は、管見の限り、ない。また、勧誘の断り会話の対照研究は、日本語と英語、インドネシア語、スワヒリ語、カザフ語などの対照研究はあるが、クメール語との対照研究は、管見の限り、ない。

本稿は、日本語とクメール語の勧誘の断り会話を分析し、それぞれの言語の勧誘の断り会話の構造を明らかにしたい。

3. 研究方法

本研究では、ロールプレイデータを用いて研究を行う。本研究の目的を達成するためには、自然会話を使用するのが最適であると考えたが、筒井（2002）が指摘したように、勧誘会話は、会話の状況や会話者の人間関係などによって談話構造が異なる可能性がある。そのため、日本語とクメール語の勧誘会話の構造を対照するためには、両言語におけるそれぞれの会話の場面や状況、会話者の人間関係などの条件を一致させる必要がある。自然会話を収集する手法では、それらの条件を一致させ、対象の会話の数を集めるのは非常に厳しいと考えられる。そこで本研究では、ロールプレイを調査方法に用い、それらの条件を揃えた上で会話データを収集する。

3. 1　用語の定義

本研究では、勧誘を行う人を「勧誘者」、勧誘をされた人を「被勧誘者」と呼ぶこととし、「勧誘」を次のように定義する。「勧誘」は親しい関係を維持したり、強化したりするため

に自分が行おうとする行為に相手も共に参加するよう働きかける行為である。

また、本稿の分析対象とする勧誘の断り会話には、被勧誘者が【断り】の発話を使用し、勧誘者の勧誘を受け入れない会話に加え、被勧誘者の都合が合わないなど勧誘の前提条件が満たされないために、具体的な勧誘に進むことができないまま [1]、会話を終えるものも含む。

3. 2　データ収集方法と調査協力者

本調査は 2016 年 6 月から 2016 年 8 月にかけて関西地方にある大学及びカンボジアのプノンペンにある大学で実施した。調査協力者は JNS ペア、KNS ペアそれぞれ 10 組（そのうち女性同士 5 組、男性同士 5 組）の合計 20 組である。なお、この両言語 20 組のデータでは、両言語の特徴を一般化するには不十分であるため、本調査で得られる結果はあくまでも仮説の域を出ない。この点を本研究の限界として指摘しておく。また、年齢差や会話者の人間関係などが分析結果に及ぼす影響を避けるために、大学生の友人同士のペアという設定で、できる限り自然な会話に近い会話を収集するために、実際に親しい友人同士の協力者を募った。ただし、親しさのレベルは明確に測ることもできず、何年付き合ったから親しいと決めることもできないため、本稿では、「親しい友人」は同じ学年で、同じ授業を取ったり、授業以外の時間もよく一緒に遊んだり、食事をしたりしている仲間同士のことを意味することとする。

調査において、JNS には日本語のロールカード、KNS にはクメール語のロールカードを使用し、協力者が気楽に話すことができるように、筆者は同席せず、教室で録音を行った。録音したデータは文字化し、KNS の会話は日本語に翻訳し、各発話に発話機能ラベルをつける。【　】で示したのが発話機能のラベルである。発話機能の詳細と文字化に際して使用する記号については、クイ（2018）を参照されたい。また、個人を特定できないよう、人名は「〇〇」や「△△」に変更した。

3. 3　ロールプレイの詳細

本研究のロールプレイの内容は、「二人での夕食に誘う」という場面を設定した。「夕食に誘う」といったトピックを設定した主な理由は、JNS と KNS の大学生が「二人で行動する」場面として、日常生活の中で遭遇する可能性が高いと考えたからである。使用したロールカードは以下のとおりである。（クメール語版も同じ内容）

日本語版のロールカード

勧誘者　A) あなたは大学生です。Bさんとは、同じ大学の親しい友達です。Bさんとは、同じ学年で、同じ授業を取ったり、授業以外の時間もよく一緒に遊んだり、食事をしたりしています。今週末にBさんと二人で夕食を食べに行きたいと思っています（土曜日か日曜日かはあなたが決めてください）。授業の後、Bさんを誘ってください。 ※必要であれば、以下の1～5を前もって考えておいて誘ってください。あるいは、Bさんと相談してこれらのことを決めてもかまいません。1.何を食べるか、2.お店、3.場所、4.営業時間、5.予算…

被勧誘者　B)あなたは大学生です。Aさんとは、同じ大学の親しい友達です。Aさんとは、同じ学年で、同じ授業を取ったり、Aさんとは、授業以外の時間もよく一緒に遊んだり、食事をしたりしています。授業後、Aさんに声をかけられたら、会話をして、Aさんに誘われたら、自分なりの断り方で断ってください。

3. 4　分析方法

次に、分析方法について述べる。

本研究では、各会話データを文字化し、各発話に発話機能のラベルを付けた上で、《開始部》《勧誘部》《終結部》の 3 つの部分に分けて勧誘の断り会話の構造を分析し、両言語の類似点と相違点を明らかにする。各部分の定義は以下のとおりである。

《開始部》　：一緒に会話のできる状況を作る、または会話できるかどうかの確認などを行う部分。例えば、【挨拶】や【呼びかけ】などである。

《勧誘部》　：勧誘者が被勧誘者を二人での夕食に誘う内容に入るとき、最初にかける発話（【都合伺い】、【前提条件の提示】、【勧誘】など）から、勧誘の断りを受諾する発話まで。ただし、《勧誘部》には＜交渉部＞＜代案部＞＜再勧誘部＞が現れる場合がある。それらの部分の分け方は以下のとおりである。

＜交渉部＞　：《勧誘部》において、断りを行う前に、都合や勧誘の内容などについて交渉する部分である。

＜代案部＞　：前の勧誘が遂行できないことがわかった後、勧誘者か被勧誘者が代案を提示する発話から、代案を受け入れるか否定するかがわかる発話まで。

＜再勧誘部＞　：被勧誘者に勧誘を遂行してもらうために、再度同じことに誘う発話から、再勧誘を受け入れるか断るかがわかる発話まで。

※＜代案部＞＜再勧誘部＞が独立して順番に現れるのではなく、ほかの部分の中に挿入的に現れたり、何回も繰り返して現れたりする場合がある。

《終結部》　：勧誘者が断りを完全に受諾した後から、会話が終了するまで。

これらの部分について、出現の有無や出現回数、およびそれぞれの内容を観察し、両言語での現れ方を対照する。

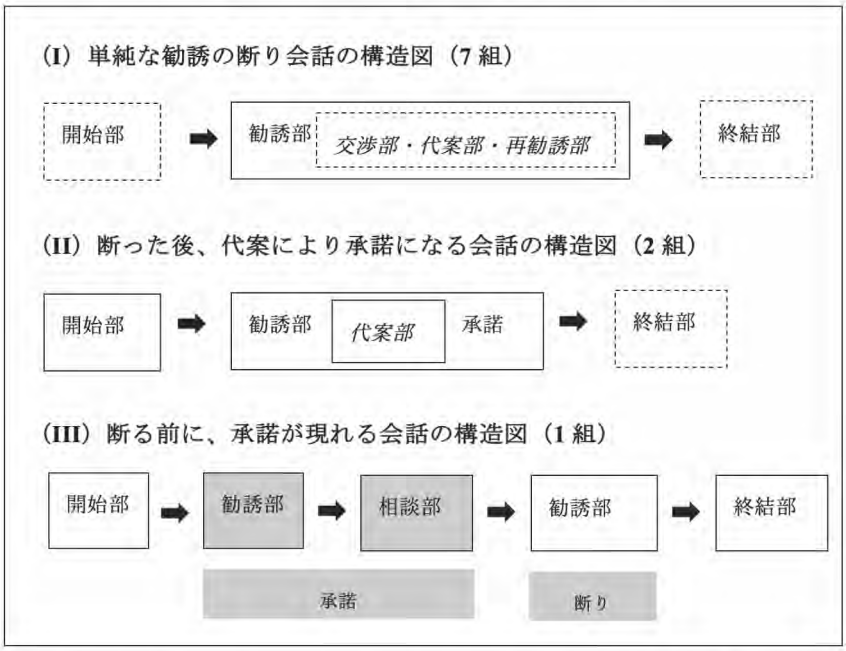
4. 分析の結果

本章では、本調査のデータの分析から得られた、日本語とクメール語の勧誘の断り会話の全体構造と、各会話における会話の各部分の有無と出現回数や内容を見ていく。

4．1　日本語とクメール語の勧誘の断り会話の全体構造

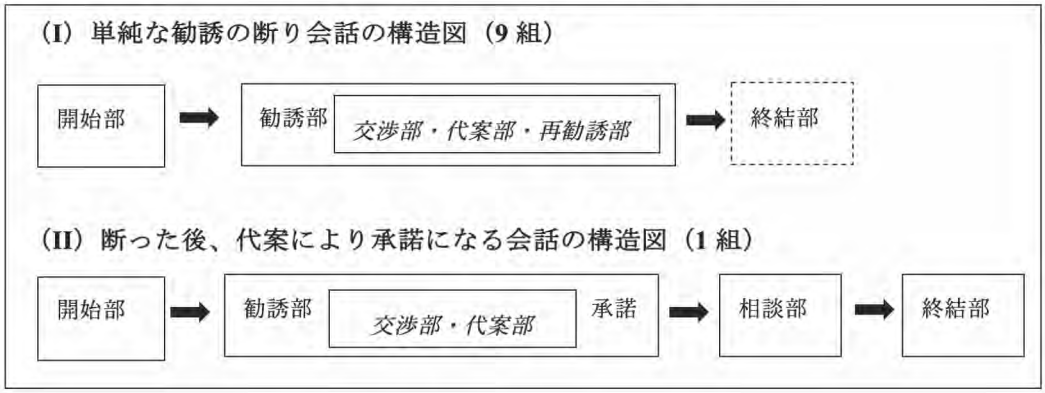
まず、本調査の勧誘の断り会話のデータを 3．4 で述べた方法で分析して得られた、日本語とクメール語の勧誘の断り会話の全体構造を示す。日本語の勧誘の断り会話の構造は図 1、クメール語の勧誘の断り会話の構造は図 2 のように表せる。

図 1　日本語の勧誘の断り会話の構造図



※点線の部分は必須ではないが、それら全てが出現しないという例は見られなかった。

図 2 クメール語の勧誘の断り会話の構造図



※点線の部分は出現しない場合がある。

日本語の勧誘の断り会話の構造は、図1のように3パターンに分けられる。パターン(I)は単純な勧誘の断り会話、パターン（II）は断った後、代案により承諾になる会話、パターン（III）は最終的に断る前に、承諾が現れる会話である。本調査のデータでは、パターン（I）が7組、パターン（II）が2組、パターン（III）が1組見られた。パターン（I）の会話では、＜交渉部＞＜代案部＞＜再勧誘部＞のいずれも現れない会話はあるが、現れる会話でも、＜交渉部＞＜代案部＞＜再勧誘部＞のすべてが現れる会話はなく、いずれか一つだけが現れる会話のみであった。

クメール語の勧誘の断り会話の構造は、図2のように2パターンに分けられる。パターン（I）は単純な勧誘の断り会話、パターン（II）は断った後、代案により承諾になり、その後、勧誘内容を相談する会話である。本調査のデータでは、パターン（I）が9組、パターン（II）が1組見られた。パターン（I）の会話では、会話の構造は日本語と同じであるが、＜交渉部＞、＜代案部＞、＜再勧誘部＞が全て現れない会話がない。全て現れる会話、いずれか一つだけが現れる会話があったが、＜交渉部＞と＜代案部＞、あるいは、＜代案部＞と＜再勧誘部＞がともに現れる会話が多かった。

4．2　日本語とクメール語の勧誘の断り会話の各部分の有無

続いて、前節で見た各言語の全体構造について、その詳細を見ていく。両言語それぞれ10 組の会話について、3．4 に挙げた各部分の有無および出現回数と内容を分析した結果が、日本語の表1、およびクメール語の表2である。

表1　日本語の勧誘の断り会話

データ名	開始部	勧誘部	交渉部	代案部	再勧誘部	終結部
JNSW6	呼びかけ	○	日程	×	×	×
JNSW7	挨拶	○	×	1（被勧誘者が代案を提示した。）	×	行為宣言
JNSW8	呼びかけ	○ 都合が合わない →事情説明	×	1（被勧誘者の代案によって承諾になった。）	×	別れの挨拶
JNSW9	挨拶	○	×	1（被勧誘者の代案によって承諾になった。）	×	×
JNSW10	呼びかけ	○	×	1（勧誘者が代案要求をした。）	×	行為宣言
JNSM6	×	○	×	×	×	次回の勧誘の予告
JNSM7	話しかけ	○ 承諾→断り	×	×	×	次回の勧誘の予告
JNSM8	呼びかけ	○	時間	×	×	次回の勧誘の予告
JNSM9	挨拶	○	×	1（勧誘者が代案を提示した。）	×	行為宣言
JNSM10	呼びかけ	○	×	×	1	行為宣言

表 2　クメール語の勧誘の断り会話

データ名	開始部	勧誘部	交渉部	代案部	再勧誘部	終結部
KNSW6	呼びかけ	○	×	1(被勧誘者が代案を提示した。)	2	次回の勧誘の予告
KNSW7	呼びかけ スモールトーク	○	時間	1（被勧誘者の代案によって承諾になり、その後、勧誘内容の相談を行った。）	×	別れの挨拶
KNSW8	呼びかけ	○	×	3	8	×
KNSW9	呼びかけ	○	×	3	5	×
KNSW10	呼びかけ	○	時間	4	2	×
KNSM6	話しかけ	○	×	×	1	次回の勧誘の予告
KNSM7	呼びかけ	○	×	1(被勧誘者が代案を提示した。)	1	感謝
KNSM8	呼びかけ	○	×	×	2	×
KNSM9	話しかけ	○	時間と内容	2	2	別れの挨拶
KNSM10	話しかけ	○	内容	×	×	次回の勧誘の予告

※表 1、表 2 とも、×は該当する部分がデータ中に無いこと、○は該当する部分がデータ中にあることを表す。数字は代案・再勧誘を行う回数を表す。

表 1 と表 2 から、日本語とクメール語の各部分の有無および出現回数についての共通点と相違点を以下にまとめる。

共通点

（1）両言語とも、JNSM6 の一例を除き、すべての会話に《開始部》が現れた。勧誘者が挨拶や呼びかけや話しかけで会話を開始し、その後《勧誘部》に移っている。

（2）両言語とも、《終結部》が現れる会話と、現れない会話がある。現れる場合は、どちらの言語も、【別れの挨拶】（51JM1「じゃね::.」）、【次回の勧誘の予告】（26JM11「ま:またの機会やなじゃあ.」）を行う会話が見られた。

（3）両言語とも、被勧誘者の代案によって承諾になった会話があった。

相違点

（1）日本語の勧誘会話では、ほとんどの会話で再勧誘を行わなかったが、クメール語の勧誘会話では、ほとんどの会話で再勧誘を行っていた。そして、クメール語の会話の特徴としては、再勧誘を 1 回だけでなく、2 回以上行う会話が多かったことである。

（2）日本語では代案によって承諾になった会話でも、承諾した後詳しく勧誘内容に関する相談をしなかったが、クメール語では代案によって承諾になった後、勧誘内容を詳しく相談する会話が見られた。

（3）日本語では、一つの会話の中で、代案か再勧誘のどちらか一つのみが現れ、代案と再勧誘をともに行う会話が見られなかった。クメール語では、代案と再勧誘をともに行う会話が 6 会話あった。

（4）日本語では、承諾をした後、なんらかの理由で【断り】を行った会話が見られたが、クメール語では見られなかった。

（5）両言語とも、《終結部》は必須な部分ではないが、【行為宣言】（42JW13「じゃ(.)一人で行ってきます.」）をして会話を終えることは日本語の会話にのみ見られた。また、《終結部》で、【感謝】（15KM13「ありがとう」）を行うことはクメール語の会話にのみあった。

次節では、上記の相違点のうち（1）再勧誘について、具体的な事例を挙げながら見ていく。

4. 3　日本語とクメール語の会話の再勧誘

まず、日本語の勧誘の断り会話で現れる再勧誘を見ていく。本調査のデータでは、再勧誘を行う日本語の会話は1組のみ見られた。

例1を見てみたい。例1では、勧誘者の【勧誘】04JM19「焼肉行かへん?」に対し、被勧誘者が05JM20「=焼肉か：」と【保留】の返事をしており、それを受けて勧誘者が06JM19「最近全然食べてへんからさ,すごい行きたいんやけどさ,」と【再勧誘】を行っている。

例1：JNSM10：JM19=勧誘者、JM20=被勧誘者

《勧誘部》
（省略：前提条件の確認）
04JM19: 焼肉行かへん?　【勧誘】
05JM20: =焼肉[か：　【保留】
＜再勧誘部＞
06JM19:　[最近全然食べてへんからさ,すごい行きたいんやけどさ,　【現状説明】【意志表示】＝【再勧誘】
07JM20: あ:でも:えいくらぐらいになりそう?　【勧誘の詳細情報要求】
08JM19: 焼肉あ梅田のとこでさ,1500円くらいあんねんけどさ=　【勧誘の詳細情報提供】
09JM20: =1500(h)円(h)↓か(h).　【理解】
10JM19: であ:のう,その週↑末,　【前提条件の提示（日時）】
11JM20: うん=　【継続支持】
12JM19: =うん>俺<暇やから(.)週末の(.)夜かな,昼は>ちょっと<バイトあるから,　【前提条件の提示（日時）】
13JM20: あ::　【理解】
14JM19: 夜暇やから,週末の夕食,　【前提条件の提示（日時）】
15JM20: ↑あ週末の夕食か?うんなんか(.)友達となんか(.).h どっかの(.)あのうカレー屋に行くことに[なっとって,　【確認要求】【断りの理由説明】
16JM19:　[カレ(h)ー屋(h)hhh
[hhh.hh　【確認要求】
17JM20: [hhhhh.hhhhh.h
18JM20: ちょっと(.)うん¥カレー食べるわ¥.　【断り】
19JM19: あ:そっち行く?　【確認要求】
20JM20: うん.　【確認】
21JM19: あ分かった.うんじゃま,　【受諾】

ここでは、被勧誘者が【断り】ではなく【保留】を行ったため、勧誘者にとっては再勧誘をしやすい状況になり、【再勧誘】を行うことができたと考えられる。

本調査の日本語データでは、被勧誘者が【断り】を行った全ての会話において【再勧誘】を行っていなかった。例えば、以下の例2のような会話である。

例2：JNSM9：JM17=勧誘者、JM18=被勧誘者

《勧誘部》
09JM17: 行きたいラーメン屋さんがあって,　【前提条件の提示（内容）】
10JM18: お：　【継続支持】
11JM17:.h
12JM18: ラーメン屋な?　【確認要求】
（省略：お店について話している。）
29JM17: ちょっとそれで(.)一人で行くのもなあと思ったから-　【勧誘の理由説明】
30JM18: い(h)や(h)い(h)や(h).h-　【否定】
31JM17: ちょっと-=　【勧誘の理由説明】
32JM18: =一(h)人(h)で(h)行(h)け(h).　【断り】＝【冗談】
33JM17: [[hhh
34JM18:[[hhhh.h
35JM17:一緒に行こうかなと思って[言ってんねんけど,　【意志表示】＝【勧誘】
36JM18:　[あ；お：
37JM18:ま行きたいけどな=　【意志表示】
38JM17:=>お前<ラーメン好きやっけ?　【情報要求】
39JM18:俺は：ラーメンは好きやけど:,　【情報提供】
40JM17:うん.　【理解】
41JM18: そうやな好きやけど::土日土日は:どっちも予定入っとるからな-　【断りの理由説明】
42JM17: >°そっかそっか°<　【理解】
（省略：断りの理由を説明している。）
56JM18: =そうそう.だからちょっと1日中無理かな,　【断り】

57JM17: あほんま? 【確認要求】
58JM18: うん. 【確認】
59JM17: そっか:. 【受諾】
60（0.8）
＜代案部＞
61JM17: じゃ.
62JM18: うん.
63（0.9）
64JM17: えどうしようかな来週は?
【勧誘のためらい】【代案提示】
65JM18: 来週?来週も別にいいけど（.）普通にもう(.)だいたい俺練習かバイトやから:. 【断りの理由説明】
（省略：断りの理由を説明している。）
72JM17: じゃ一人で行くわ. 【受諾】
73JM18: 一(h)人(h)で(h)オッケ[.h 【受け入れ】

例 2 では、 09JM17「行きたいラーメン屋さんがあって,」と【前提条件の提示】で《勧誘部》を開始し、行きたい所の情報を提供してから 35JM17「一緒に行こうかなと思って言ってんねんけど,」と誘ったが、被勧誘者は 56JM18「=そうそう.だからちょっと 1 日中無理かな.」と【断り】を行っている。勧誘者は【再勧誘】を行わず、64JM17「来週は?」と別の日程の代案を提示しているが、被勧誘者は 65JM18「来週?来週も別にいいけど（.）普通にもう(.)だいたい俺練習かバイトやから:.」と【断りの理由説明】をして断ったため、勧誘者は 72JM17「じゃ一人で行くわ.」と断りを【受諾】している。

このような例から、日本語の勧誘の断り会話では、被勧誘者が勧誘を断った後は、勧誘者は再勧誘をせず、代案を提示したとしても被勧誘者に断られれば、すぐにその断りを受諾して会話を終える傾向があると言えそうである。

次に、クメール語の勧誘の断り会話で見られる再勧誘を見ていく。本調査のデータでは、10 組の会話のうち、再勧誘を行う会話が 8 組あった。再勧誘を行う会話は日本語の会話と異なり、再勧誘を 1 回だけでなく、繰り返し何回も行う会話が多かった。また、被勧誘者にはっきりと断られても、再勧誘を行っていた。

例 3 を見てみたい。例 3 では、勧誘者が 02KW15「たこ焼きを食べたい。今週の土曜日行かない？」と【勧誘】を行い、被勧誘者が 05KW16「行けない。交通手段がないから。」と断っても、勧誘者はその後何度も【再勧誘】を行っている。この会話では、再勧誘が合計 8 回行われている。

例 3：KNSW8：KW15=勧誘者、KW16=被勧誘者

《開始部》
01KW15:○○, 【呼びかけ】
○○さん。
《勧誘部》
02KW15:ឃ្លានតាកូយ៉ាគឺហាង៉ៃសៅរ៍ទៅអត់? 【願望表明】【勧誘】
たこ焼きを食べたい。今週の土曜日行かない?
03KW16:អឺ.ង៉ៃសៅរ៍ណ្ហ. 【思案中】【確認要求】
うーん、土曜日?
04KW15:ពេលល្ងាចបួន ប្រាំម. 【勧誘の詳細情報提供】
夕方 4 時か、5 時（ごろ）。
05KW16:អ្ហ:អត់បានទេបួនប្រាំមល្ងាចហាស់: ទៅអត់ក្រើតហោ[អត់មានអីធ:
【断り】【断りの理由説明】
あー、行けない。4 時か、5 時はちょっと遅い。行けない。交通手段がないから
06KW15: [ជុម
あれ
07KW15:ង៉ៃសៅរ៍សោះហ្ន៎ង? 【不満】
土曜日なのに。
08KW16:អឺ: អត់មានអីធ:ហោ. 【断りの理由説明】
うん、交通手段がないの。
＜再勧誘・代案部＞
09KW15:ចឹងឯងទៅយក(.)យកដល់ទ:. 【再勧誘】
それじゃ、家まで迎えに行くよ。
10KW16:អ្ហយអត់មានណាចាំទ:ផងហ្ន៎ង[ទៅម៉េច?= 【断りの理由説明】【断り】
いや、留守番をする人もいないし、行けないよ。
11KW15: [ឯងសុំណាស់ណា.ទៅម៉ាភ្លេតសោះ
ហ្ន៎ង. យ៉ាន់តាញ៉ាគាកូយ៉ាគឺហើយដើរម៉ាជុំពីរហើយមកទ:វិញ.
【不満】【再勧誘】【勧誘の詳細情報提供】
もう、面倒くさいな。ちょっと行くだけだよ。たこ焼きを食べて、ちょっとしたら帰るよ。
12KW16:អត់មានណាចាំទ:. 【断りの理由説明】
留守番をする人がいないの。

13KW15:អូយ:លើអញឃ្លានហើយអត់ស្រកទៀត. 【勧誘の理由説明】＝【再勧誘】
えー、（たこ焼きを）食べたい。退屈だし。
14KW16:អ::បបូលៗនេះគេទៅ.បបូលឆ្អេងណ្ណែ △△អីក៏បានដែរបូលទៅ.
【代案提示】
うーん、他の人を誘ってよ。 兄弟とか、△△さんとか誘ったら?
15KW15:អឹម::បបូលពួកហ្នឹងហើយហើយបបូលណ្ណែងចុងក្រោយគេហ្នឹងហើយ
មានតាណ្ណែងមួយទៀតហោ.=ទៅអត់?
【不同意】【勧誘の理由説明】＝【再勧誘】
ううん、もうみんな誘ったよ。後はあなただけなの。行く?
16KW16:អូយអត់ទៅហោ(.) វល់ហាស់. 【断り】【断りの理由説明】
ううん、行かない。とても忙しい。
（省略：勧誘者が 3 回再勧誘を、被勧誘者が 2 回代案を提示している。）
35KW15:អត់មែន? 【再勧誘】
本当に行かない?
36KW16:អត់ហោ. 【断り】
行かない。
37KW15:បានហើយចឹង. 【受諾】
じゃ、それで。

ここでは、被勧誘者の「交通手段がない。」という断りに対し、勧誘者は、09KW15「それじゃ、家まで迎えに行くよ。」と【再勧誘】を行い、被勧誘者の 10KW16「いや、留守番をする人もいないし、行けないよ。」という断りには 11KW15「ちょっと行くだけだよ。」という【再勧誘】を行い、再度の 12KW16「留守番をする人がいないの」という断りに対しては「食べたい。退屈だし。」と【再勧誘】を行うというように、何度も繰り返し再勧誘を行っている。これに対して、被勧誘者は 14KW16「うーん、他の人を誘ってよ。兄弟とか、△△さんとか誘ったら?」と【代案】を提示しているが、勧誘者はそれでも諦めずに、15KW15「ううん、もうみんな誘ったよ。後はあなただけなの。行く?」と続けて【再勧誘】を行っている。その後勧誘者が何回も【再勧誘】を行っても、被勧誘者が続けて断ったため、最後に 35KW15「本当に行かない?」と確認することにより【再勧誘】を行ったが、被勧誘者が 36KW16「行かない。」と【断り】をし、勧誘者は 37KW15「じゃ、それで」と【断り】を【受諾】し、会話を終えている。

続いて、例 4 を見てみたい。この会話では、再勧誘が 2 回行われている。

例 4：KNSM9：KM17=勧誘者、KM18=被勧誘者

《勧誘部》
（省略：都合を聞く。）
05KM18:តស្សវស្សសិនថា(.)ចង់ចង់ទៅណាព្រោះងៃសៅរ៍ហ្នឹងដូចមានរឿងវល់.
どこに行きたいのか先に言って。今週の土曜日ちょっと忙しいから。 【事情説明要求】
06KM17:អ :បបូលស៊ីអី. 【事情説明】＝【勧誘】
うん、何か一緒に食べに行きたいんだけど。
07(.)
08KM18:ទៅស៊ីអីគេហ្លា? 【勧誘の詳細情報要求】
何を食べに行く?
09(0.5)
10KM17:រកបបូលទៅស៊ី(h):ប្រហិតអីជិតហ្នឹង.ហ្នឹងណា.
【勧誘の詳細情報提供】
この近くの店に、つくねを食べに行きたいんだけど。
11KM18:ឆើយទៅស៊ីប្រហិតទៀតហើយអត់ទៅហ្ហេ. 【不満】【断り】
またつくねを食べに行くのか。行かない。
＜再勧誘・代案部＞
12KM17:ស៊ីតាម៉ាណ្ណែតទេ. 【再勧誘】
ちょっと食べるだけ。
13KM18:អត់ទេព្រោះ.hរឿងប្រញាប់តិចលើស៊ីប្រហិតដដែលមិនបាច់ស៊ី(h)ក៏(h)
បាន(h)ដែរ(h). 【断りの理由説明】【断り】
いや、ちょっと用事があるから、つくねだったら食べたくないな。
（省略：理由の話）
20KM17:និយាយទៅចង់ទៅស៊ីហ្នឹង,ឃ្លានហើយខ្ញុំលទៅស៊ីម្នាក់ឯង.【再勧誘】
食べに行きたいけど、一人で行くのは嫌だよ。
21KM18:ច្រើងៗចាំងៃលើកក្រោយហ្ហេងៗទៅ. លើអាណ្ណរវល់កុំអោយលក្ខណៈថា
(.)ទៅស៊ីយ៉ាងគ្រដាប់ត្រដួសពេកហា.មានន័យថាអឺ:ប្រញាប់ប្រញាល់
មកវិញ.ជ៉ាបាកណាស់ចាំចាំ(.)ចាំលើកក្រោយហ្ហេងទៅ.
【次回の勧誘の予告】【断りの理由説明】【次回の勧誘の予告】＝【断り】
じゃ、また今度行こう。今回は忙しいから。急いで親戚の家から戻って来て、急いで食べに行くのは大変だから。今度にしよう。
22KM17:លើកក្រោយមែន. 【確認要求】
今度?
23KM18:ឆើយយ៉ាប់ណាស់. 【確認】
まったく（面倒くさがる）。
24KM17:អឺលើកក្រោយលើកក្រោយទៅចឹង. 【受諾】
うん、今度、今度にしよう。

例 4 では、勧誘者が 06KM17「うん、何か一緒に食べに行きたいんだけど。」と【勧誘】を行い、被勧誘者はその詳細情報を聞いてから、11KM18「またつくねを食べに行くのか。行かない。」と断ったが、勧誘者はすぐにその【断り】を【受諾】せずに、12KM17「ちょっと食べるだけ。」と【再勧誘】を行っている。それに対し、被勧誘者は 13KM18「ちょっと用事があるから、つくねだったら食べたくないな。」と断りの理由を説明して断り、その後しばらく断りの理由について話していたが、勧誘者がまだ諦めずに 20KM17「食べに行きたいけど、一人で行くのは嫌だよ。」と再び【再勧誘】を行ったので、被勧誘者は 21KM18「じゃ、また今度行こう。今回は忙しいから…」と【次回の勧誘の予告】をしたり、【断りの理由説明】をしたりすることで、勧誘者に 24KM17「うん、今度、今度にしよう。」と【断り】を【受諾】してもらうことができた。

これらの会話に見られるように、クメール語の勧誘の断り会話では、被勧誘者が勧誘を断った後、勧誘者がすぐにその断りを受諾して会話を終えるのではなく、再勧誘をする傾向があると言える。これは、勧誘の断りを受諾して会話を終えるという日本語の会話の展開とは大きく異なるため、クメール語を母語とする日本語学習者が日本語母語話者と会話を行うと、クメール語の影響により、1 章で言及したような筆者の経験と同様の印象を抱くことになるのではないかと思われる。

5. まとめと今後の課題

本稿では、ロールプレイのデータを用いて日本語とクメール語の勧誘の断り会話の構造について分析、考察した。日本語とクメール語の勧誘の断りの会話の構造は、どちらの会話もパターン（I）《開始部》《勧誘部》《終結部》の会話が多かった。ただし、断った後、日本語の会話では、 再勧誘を行わないが、クメール語では再勧誘を行う傾向がある。日本語では再勧誘を行う会話は 1 組しか見られなかったのに対し、クメール語では、ほとんどの会話が再勧誘を行っていた。このような両言語の相違については、以下のような理由があると推測される。KNS にとって再勧誘は勧誘者が本当に被勧誘者を誘いたいという気持ちを表す方法の一つであるため、勧誘会話を行う際、被勧誘者に断られても本当に誘いたいと伝えるために再勧誘を行うと考えられる。一方、日本語の会話では、押し付けがましさを避けるために、再勧誘をあまり行わないのだろう。別の見方をすると、親しい友人の勧誘会話では、JNS より KNS のほうが断りたいとき気軽に断ることができるため、再勧誘もしやすいと考えられる。JNS はどうしても一緒に行けないときしか断らないので、再勧誘をすると相手を困らせる可能性があるため、再勧誘をしないほうが望ましいのだと考えられる。

今後、この研究結果を日本語教育に応用するためには、本稿で明らかにした会話の構造に加えて、再勧誘の仕方やそれに対する反応の仕方を詳細に分析する必要がある。これに

ついては今後の課題としたい。

注

(1) 都合が合わないため、事情説明のみで会話を終える場合は、実際の会話では、勧誘か依頼かを判断できないが、本研究では、勧誘会話と設定しため、このような会話も勧誘会話と考える。

【参考文献】

アイトマガンベトヴァ，アリヤ（2016）『日本語とカザフ語の勧誘会話の対照分析－勧誘の習慣性／一回性の観点から－』大阪大学大学院言語文化研究科修士論文

川口義、蒲谷宏、坂本恵（2002）「待遇表現としての「誘い」」『早稲田大学日本語教育研究』1 号、pp.21-30

クイ，シェンキアン（2018）『日本語とクメール語における勧誘会話の対照研究－勧誘の承諾の会話に着目して－』大阪大学大学院言語文化研究科修士論文

ザトラウスキー，ポリー（1993）『日本語の談話の構造分析－勧誘のストラテジーの考察－』くろしお出版

鈴木睦（2003）「コミュニケーションからみた勧誘のしくみ－日本語教育の観点から－」『社会言語科学』6 巻 1 号　社会言語科学会、pp.112-121

筒井佐代（2002）「会話の構造分析と会話教育」『日本語日本文化研究』12 号　阪大国語大学日本語講座、pp.9-21

中垣友江（2014）「日本語とスワヒリ語における「勧誘」会話の対照研究：昼ごはんの「勧誘の断り」の会話から」『日本語・日本文化研究』24 号、pp.170-185

長谷川哲子（2002）「勧誘の談話における日本語学習者の発話の特徴」『立命館言語文化研究』14 巻 3 号、pp.215-224

吉田好美（2011）「勧誘場面における断りのコミュニケーションに見られる代案について－日本人女子学生とインドネシア人女子学生の比較－」『群馬大学国際教育・研究センター論集』10、pp.17-32